

2012年1月13日

尾張北部地域ごみ焼却処理広域化第1小ブロック会議

会長 扶桑町長 江戸 満 様

日本共産党一宮尾北地区委員会	委員長	田中 一成
日本共産党江南市議員団	団長	森 ケイ子
日本共産党犬山市議員団	団長	岡 覚
日本共産党扶桑町議員団	団長	小林 明
日本共産党大口町議員団	団長	吉田 正

尾張北部地域第1小ブロックにおける 新施設建設問題についての申し入れ書

新ごみ処理施設の建設をめぐることは、2010年5月の第1小ブロック会議で犬山市池野地区を候補地に決定しましたが、その後1年8ヶ月間、地元の池野地区をはじめ、隣接する小牧市野口・大山地区の住民からも再三にわたり候補地の白紙撤回、再考を求める声があがり、候補地問題は進展がみられません。2011年11月には、地権者である(株)丹羽由からも、「地元合意が得られない場合は、用地の提供を再考させていただきたい」との趣旨の文書も提出されました。

候補地選定にあたっては地元住民の理解と合意が不可欠です。合意を得ることが困難である以上、ここに至った原因と責任を明らかにし、新たな局面へ移行する決断を下すべきではないでしょうか。

そもそも、新ごみ処理施設建設計画の基本となる「尾張北部地域第1小ブロックごみ処理広域化実施計画」(2009年6月)は、住民参加の議論のないまま策定された上に、ごみ減量、資源化の視点に欠けた過大な施設規模と広域処理となっており、一地区に負担を集中させる計画です。また候補地選定では、各市町1か所の抽出時から、地元の説明すらしない住民無視の選定と上からの押し付けが行われました。1か所に絞り込んだ後も4首長の足並みが乱れ、いっそう住民の信頼を失うことになりました。

ごみ問題の解決にあたっては、住民と行政の信頼、協力関係を何よりも大切にしなければなりません。にもかかわらず、これを損なう対応で今日の事態を招いたことに対し、深く反省を求めます。

新ごみ処理施設建設は、全住民が自らの課題としてごみ問題に向き合い理解を深め、ごみ減量や資源化を一層推進する契機とするべきであり、住民と行政の協働によるまちづくりをすすめる格好の機会でもあります。この観点に立ち、新ごみ処理施設建設にむけて下記の申し入れを行うものです。

記

1. ごみ減量、資源化を正面にすえ、尾張北部地域第1小ブロックごみ処理広域化実施計画を見直し、施設規模を縮小した新たな実施計画を、住民参加のもとで策定し直すこと。その際、「自分たちの地域のごみは、自分たちで責任をもつ」自区内処理を選択肢に入れること。
2. 建設候補地の選定にあたっては、処理方式の検討も合わせて進め、決して上からの押し付けを行わないこと。情報を十分に公開しながら住民参加と合意のもとで一から選定をやり直すこと。
3. 処理方式は、ごみ減量に逆行せず、安全で安定した稼働が見込め、財政負担の少ない方式を選定すること。この選定にあたっては、住民参加と合意を貫くこと。
4. 上記1, 2, 3について、住民に対する積極的な広報活動、情報公開のもと、住民参加で一体に進めること。

以上